梅棹忠夫さんの仕事

第一は、日本文明を世界の中に位置づけた「文明の生態史観」（１９５７年）である
　これは。当時のマルクス主義や欧米至上主義の強かった思想界のなかで、自信を喪失気味だったインテリゲンジャに勇気を与えた。

第二は、情報産業の時代が来ることを予想した「情報産業論」（１９６３年)。勃興期にあった放送界で働く人たちを鼓舞した。
　さらに「知的生産の技術」（１９６９年）では、情報とは何か、その膨大な量の処理する実際を示した。その思想と技術は、今なお大きな影響を与えている。

第三は、国立民族学博物館の創設。
　これは１９７０年の大阪万博で経済成長のありがたさを実感した一般人に対して、日本人も世界の民族の一員であり、世界文明という視点で考える必要性を、博物館という装置で示した。

　以上、特筆すべきは、これがすべて、「自分の足で歩いて確かめ、自分で見て観察し、自分の頭で考える」という、科学的思考（フィールドワーク）に支えられているものであることである。